

総合教育会議記録

1. 日 時 平成31年2月5日(火) 午前10時30分 開会
午前11時55分 閉会

2. 場 所 条里南庁舎 会議室

3. 出席者 横手市長 高橋 大
横手市教育委員会
教育長 伊藤 孝俊
教育長職務代理者 二階堂 衛
教育委員 加賀谷長吉
教育委員 今仲 和代
教育委員 佐々木雅子

4. 説明のため出席した者(10名)

総務部次長兼総務課長	佐藤 勉
教育総務部長	栗田 律子
教育総務部次長兼教育総務課長	高橋 純
文化財保護課長	高橋 輝幸
図書館課長	佐藤 輝明
教育指導部長	江畑 譲
教育指導課長	木村 司
学校教育課長	木村 雅美
学校教育課政策監	遠藤 美紀子
学校給食課長	田代 久和

5. 事務局 総務課文書法規係長 嶋田 貴
教育総務課教育総務係長 大塚 昭生

6. 会議に付した事件

- (1) 平成31年度教育行政方針(案)について
- (2) その他

7. 会議の経過と結果

開 会 午前10時30分

●栗田教育総務部長

ただ今から平成30年度第1回横手市総合教育会議を開会する。本日の進行は教育委員会教育総務部長が担当するのでよろしくお願いする。

横手市総合教育会議は平成27年4月1日に施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づいて、平成27年5月25日に設置したもので、毎年度1回会議を開催しており、今回が4回目となる。この会議は市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としており、昨年度からは新年度の教育行政方針を作成するこの時期に開催している。本日は、2019年度に教育委員会が取り組む事業について意見交換をさせていただきたいのでよろしくお願いする。

はじめに高橋市長と伊藤教育長からご挨拶をいただく。

●高橋市長

4回目の総合教育会議となった。市では、教育を司る教育委員会と教育行政に係る予算案や条例案の提案を担う市長部局が一体となって取り組んでいるところである。教育長を始め教育委員各位及び職員の皆様においては、教育行政全般にわたりご尽力いただいておりますこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

自分は日ごろから、世の中を良くするのも悪くするのも教育次第だと考えている。社会を健全に保つ意味でも、いかに人を育てていくかということが非常に重要であると捉えている。そういう意味では、非常に責任の重い役割を担っている皆さんに敬意を表する。今後も、教育委員会と市長部局が連携を図りながら、この横手市をより良くしていくために教育がどうあらねばならないのかを共に議論しながら高めていければいいと思っている。

昨今のみならず、ここ最近ずっと痛ましい虐待のニュースが散見されているが、何とか横手市ではそのようなことがないように願うばかりであるが、学校教育の現場だけで何とかなるものではない。まずは家庭や地域が重要になると思うが、地域も家庭も疲弊しているという世知辛い状況にある。そういった現実を踏まえながら、市としてどうしていけるのか模索しながらいい方向へ変えていきたい。引き続きご指導くださるようお願いする。

●伊藤教育長

日頃から市長を始め市長部局の皆様には教育委員会に対し大変なご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。新年度の予算編成に際してもご理解をいただいている。今年1年間を振り返りながら、今後どんな目標を掲げて教育委員会が進んでいくのか、市長と共に話し合いながら来年度の動きを明確化させたいと思っている。また、新年度は機構改革により生涯学習課とスポーツ振興課が教育委員会に戻ってくる。そういった意味で、これらの課が教育委員会に入ってどうなのか、ということが問われるだろうと思っている。そういう部分も含めて教育委員の皆様からの意見を伺いながら、来年度の方向性について共有できればと思っているのでよろしくお願いする。

(1) 平成31年度教育行政方針(案)について

〔説明〕

●高橋教育総務部次長兼教育総務課長

この資料は2019年度に横手市教育委員会が取り組む事業についての方針と展望をまとめ、政策会議を経て市議会3月定例会への提出を予定しているものだ。

【以下、[議題（1）資料]を基に説明】

●栗田教育総務部長

平成31年度事業の重点となる部分について教育長から説明をいただく。

●伊藤教育長

ただいま説明があった中で、各課が特に重点的に意識して頑張ってもらいたい部分をいくつか説明する。

言語活動の充実、学力の向上については永遠の課題となっている。いかに学びの質を高めていくかについては、指導主事が中心となって各学校への啓発等を更に強めていきたい。この中でも、読書・NIEについては他市町村に先駆けて特色化を図ってきているので、今後も違いを鮮明にできるような活動に結び付けていきたい。中学校からは、中高生新聞ではなく一般紙を購読したいという要望も出ており、着実に成果が出ているものと思われる。また、中学生向けの企業説明会等を実施することで、キャリア教育の充実を図っていきたい。外国語教育については、小学校での外国語活動の時間が増えるということで、ALTの増員について了承をいただいている。

特色ある動きとしては、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研究を深めていきたいと考えている。生涯学習課における家庭教育の支援、図書館課における乳幼児の読書の習慣付けといった各課の特色を存分に生かした活動をしながら、幼少の円滑な接続を進めていきたい。

防災教育については、未実施の中学校において授業を設定し、状況によっては小学校高学年に広げていきたいと考えている。今後は防災士会だけではなく、危機管理課との連携もさらに強化していきたい。新しい学習指導要領において重要視されている情報活用能力については、ICT環境の整備が来年度から始まるということで、先生方も大いに期待しているところとなっている。学校環境の整備については、十文字小学校、増田小学校、旭小学校、平鹿中学校等の工事が本格的に始まることとなっている。

新たに教育委員会に入るスポーツ振興課については、健康づくりや生きがいの創出、仲間づくりといった観点からの市民スポーツの促進について、教育委員会らしい取り組みとして力を入れていきたい。あらゆる世代があらゆる運動を通じて仲間づくりを進める市民スポーツは非常に重要だと考えている。殊更、競技スポーツだけに軸足を置くのではなく、市民スポーツの拡大についても見直しを図りながら考えていきたい。また、以前からの懸案事項であるスポーツ施設の見直しについても、市長部局との連携を図りながら具体化を図る時期にきているのではないかと考えている。

生涯学習については、子ども教室推進事業の充実と家庭教育の支援について、様々な形で推進していきたい。例えば退職した教員については、これまでの知識や経験を地域のために生かしていただくように、人材を活用できるような体制を構築し、家庭教育や子ども教育の活動につなげていきたいと考えている。これまでの地域づくり活動と結び付けながら、学校と地域を結ぶ手立てについて力を注いでいきたい。また、増田まんが美術館の活用については、教育委員会としての協力の方法について今一度検討を重ねていきたい。

図書館課については、子ども読書活動推進計画の第二次計画がスタートする。乳幼児から高齢者までの広い世代にわたって読書が日常生活に位置づけられるよう、図書館のあり方について今後も検討を重ねる必要があると考えている。とりわけ、乳幼児の読書活動については様々な試みを仕掛けていきたい。

文化財については、横手を学ぶ郷土学の一層の推進を図るために生涯学習と連携し、例えば公民館活動として実施できないか等々、具体的に検討していきたい。金沢城址の発掘については、来年度に一定の成果が出ることを期待している。主なところについては以上となる。

〔質疑〕

●今仲教育委員

資料4ページに中学生が参加した企業説明会とあるが、何年生を対象としているのか。

●木村教育指導課長

県の地域企画課から協力を求められている。高校生を対象とした企業説明会に中学生も参加できないかというお話があり、中学2年生を参加させる方向で検討している。

●加賀谷教育委員

資料19ページ、「金沢柵」を「金沢城」とした場合、時代の限定化につながりかねないと思うのだが、いかがか。

●高橋文化財保護課長

「金沢柵」と言う場合は古代の城柵を表しており、「金沢城」という場合はそれ以降、中世から近世にかけての砦を指している。中世から近世にかけて実際に建物があつたことは文献にもあり、現在は発掘調査でも明らかになっているので、金沢城跡であることははっきりと言い切れる。しかし、伝承では金沢柵があつたということになっているので、柵が実際にあつたという考古学的な実証をするため、金沢城跡の発掘調査を行っているところである。

●高橋市長

教育方針についてはこの通りだと思うが、たくましさに欠けている子供が多いと感じている。打たれ弱いというか。そういう子供が大人になり、社会人となって働いている現状もある。

●伊藤教育長

「たくましさ」というのは生きる力に含まれると思っているが、「力強さ」というニュアンスではなかなか前に出てこないという傾向はある。教育界では力強さよりも「折り合いをつける」とか「協調する」といった方向性が重要視されてきているので、そういった面では元に戻すという裁量も教育委員会として必要なのではないかと思うところもある。

●高橋市長

外国語教育の充実やICT環境の整備などの今風の流れがあるので、「生きる力」を「今を生きるテクニックとしての力」と感じてしまう。もちろん、テクニックも必要なのだろうが。

不登校や発達障害については、家庭環境など様々な理由があるのだろうが、その先には引きこもりや社会人として馴染めないということに行きついてしまうような気がしている。クラスの中で他の子に危害を加えたり、手に負えないような悪戯をするような子には「直さないといけない」という手当てがつかののだろうが、おとなしくて周囲には無害だけれども問題

があるという子もいると思う。そういう子は放置されやすいと思うのだが、どのような対応をしているのだろうか。

●江畑教育指導部長

教師が子供たちの日常を見ているが、何かおかしな部分だけを見ている訳ではなく、積極的な声掛けや教師側からの寄り添いを日々繰り返すことによって少しずつ児童生徒の理解が進んでくるものと思っている。そうした中でそのような部分を感じていくことも確かにある。教育相談などの機会もあるが、やはり教師による日々の観察が最も大事なのではないかと考えている。

●高橋市長

目に見えない発達障害などについては大分理解が進んできていると思っているが、そのような子がいずれ社会に出たときにしっかりと職場に馴染めるようにしないと、ずっと親に面倒を見られ続ける状態になってしまうのではないかと心配している。

核家族化が進み共働き世帯が増えているので、家庭での躾や教育については昔と比べると低下しているのではないかと考えている。親自身がしっかりした理念をもっているのであれば、それを逸脱した子には自信をもって指摘ができるのであろうが、そのような自信がない親御さんもいると思う。家庭で箸の持ち方も教わらないまま小学校に上がるような子供も普通にいと聞いているので、学校に求められることの比重が高まっており、学校も大変だと感じている。

スポ少の活動が熱心すぎてお祭りなどの地域活動に参加できないという話も聞いている。せっかく地域活動をしっかりやろうとしている家庭でも、大会や練習試合が入ると他に行ってしまう。地域活動の充実については、他機関との連携や理解をしっかりとしていかないと効果が出ないと思っているが、いかがだろうか。

●二階堂教育委員

教育委員会としてはスポ少との連携も図っているということだったが、教育方針の中にそういう一文があってもいいのではないかと感じた。スポ少など諸団体との関連性をもっと密にしていくという記載があれば、市長が危惧していることの解消にもつながるのではないかと。

●江畑教育指導部長

スポーツ少年団指導者の合同研修会に各小学校の管理職が参加して意見交換を行っている。これまで学校としてスポ少にお願いしたいこともあるし、スポ少として学校に伝えたいこともあったと思われるが、お互いに意見交換をして理解を深めることができている。その場では練習時間や練習期間といった話題が中心だったが、各学校とスポ少が話し合いできる体制にはなっているので、地域行事への参加についても話題にすることはできると考えている。

●伊藤教育長

来年度からスポーツ振興課が教育委員会に戻ってくるということで、現在は横手市体育協会と意思疎通を図ることに力を入れている。私も市長や二階堂委員が発言されたことを充分意識しており、今後も様々な機会において学校とスポ少の関わりについて意識化を図りたいと思っている。地域行事への参加だけではなく、学校行事や日常生活への問題も生じているので、これからスポーツ振興課や体育協会と協議しながら話を進め、ある程度報告できる内容になったら教育方針に入れたいと考えている。

●高橋市長

図書館の充実について。今は図書館の蔵書にマンガなども取り入れており、とにかく本に手を触れてもらうようにしているが、マンガすら手にとらないような子供もいる。活字に拒絶反応を示すような子供でも、マンガであれば親しみやすくなる足掛かりにはなると思う。横手市教育委員会推薦マンガとして、例えば横山光輝や山岡荘八のマンガ集などを置きながら、もっと深く知りたい人向けに小説版と一緒に置くとか、真面目すぎずにとっつきやすい方向性があるのではないかと考えている。普段全く本を読まない子供が、友達と一緒に「あそこの図書館なら面白いマンガもあるし行ってみようか」となるような図書館になれば、いろんな種類の人が集うようになるのではないかと考えている。学習マンガのような真面目なものばかり揃えるのではなくて、少し遊び心も取り入れてもらえればと思っている。

●佐々木教育委員

市長の話を知って、何か問題を抱えているのに外に出ない子に対する対応をどのようにするのかという部分については問題に感じていた。何か声をかけたりお手伝いをしたいと思うが、相手にとっては受け入れる準備もできていないだろうし、どのように関わっていけばいいものかと考えている。地域学校協働本部といった取組みが具体的にはどのようなものか気になっているが、サポートする側とサポートされる側が同じ土俵に上がることができるような工夫ができないものかと思っている。この事業には期待している。

●高橋市長

教育委員会に聞くことではないのかもしれないが、どこかの学童保育では宿題をやることを禁止しているところがあると聞いている。なので、親が遅く帰ってきても宿題ができていないのでどうしても就寝が遅くなってしまい、学校で寝てしまう子もいるとのことだった。あと、特別支援対象の子供を学童保育でしっかり受け入れられる体制になっているのだろうか。

●伊藤教育長

今は学校と学童保育の連携を強化するという雰囲気づくりは出来てきているが、それぞれの学童保育に任せっきりの状況もある。学校側としても学童保育の内容までに口を出しづらい部分があるので、これからはコーディネーター役が必要になってくると思っている。個人的には退職した教員がふさわしいと思っているが、実際に見て回って指導する立場の人を置かないと、単に児童何人に対して何人の指導員を置けばいいという話だけでないと思っている。学童保育の指導員によってやはり多少の違いはあるものと感じている。

特別支援対象の子供については、教育指導課の指導主事が機会を見て学童保育の指導員に指導している。これを組織的に実施していくことと、子育て支援課と連携して取り組んでいく必要があると思っている。特別支援を必要とする子供は増えており、色々な問題が学童保育から発生しているということもあるので、気を付けていかなければならない。

●高橋市長

学童保育の指導員も勤務時間の関係で人材確保が難しい。これもまた課題となっている。

●栗田教育総務部長

そろそろ時間となった。本日いただいた様々なご意見を来年度の取組みに活かしていきたいと思っている。2019年度教育行政方針（案）についてご異議ないか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

ご異議がないようなので、この内容で議会に提出させていただく。今後、内容の調整が必要になった場合は事務局で対応する。

その他として自由討議も予定していたが既に予定時間は経過している。もしこの場で何かあれば発言をお願いします。

【「なし」と呼ぶ者あり】

本日は貴重なご意見を出していただき御礼申し上げます。他にご意見がないようなので、これで平成30年度第1回横手市総合教育会議を閉会する。

閉 会 午前11時55分